

全国コンクリートカヌー大会



大曲工高が2連覇

連覇した大曲工高の生徒5人と山崎教諭（奥右端）

大会は8月23日に開催され、高校の部に全国から11校13チーム、大学・高専の部に8校9チームが参加。カヌーの構造や工夫した点などを競う書類審査部門と、2人乗りカヌーをこいでタイムを争うレース部門の合計点で順位を決めた。

チームは課題研究の授業で今春結成。メンバーはいずれも土木・建築科土木コース3年の、加藤駿里さん、高橋心優さん、佐藤龍永さん、品川唯斗さん、高橋蒼翔さんの5人。

指導する山崎教諭のアドバイスを受けながら、授業時間や放課後に集まって設計、製作に取り組んだ。

手作りのコンクリート製カヌーの速さなどを競う「第30回土木系学生によるコンクリートカヌー大会」（土木学会関東支部主催）が、東京都江東区の海の森水上競技場で開かれ、大仙市の大曲工業高校が連覇を果たした。参加チームなどの投票で決まる技術賞とデザイン賞も受賞した。

技術賞、デザイン賞も獲得

チームはカヌーの軽量化を最重要視。さまざまな工夫を凝らし、昨年7年ぶりに優勝を果たした先輩たちよりも約20%軽い約40kgのカヌーを作上げた。

カヌー船体に補強材として入れる亜鉛製の金網を例年の2層から1層に。代わりに、ひび割れなどを防ぐ繊維の配合を変え、強度を確保した。また、本体を形作るコンクリートの量を可能な限り減量。船体の厚みを調整し、より薄く、かつレースに耐えられるカヌーになるよう設計し、完成させた。

7月中旬から市内の玉川で練習を重ね、迎えた大会当日。予選レースを任された品川・高橋ペアは、強いプレッシャーを感じつつ「ライバルの川

崎市立川崎総合科学高（神奈川）に負けたくない」と気持ちを一つにして、見事準決勝進出を決めた。

準決勝、決勝は「練習でのタイムから勝てる自信があった」と山崎教諭が太鼓判を押す、加藤・佐藤ペアが出場。スタートから息を合わせ、後続を突き放してゴール。佐藤さんは「一つの目標に向かってチームで協力する楽しさ、成し遂げる達成感を味わえた」と振り返った。

来春から社会人として新たな一歩を踏み出す5人。夏の貴重な経験を糧に新しいフィールドに進む。加藤さんは「チームワークの大切さを学んだ。働く先でも同僚や先輩方などさまざまな人と協力していきたい」、高橋さんは「大会でこんなとはできなかったけど、この先は『土木女子』として活躍できるように頑張りたい」と前を向いていた。

（富樫幸恵）